



産業学習 in 科学館

－千葉のものづくりがミライを創る－

千葉県内には、よりよい未来のために日々努力を重ね、先駆的な取り組みを行っている企業や研究所がたくさんある。そこで、専門的な産業技術について、博物館に勤める教員集団が動画やインタビュー・質疑応答を交えた授業に仕立て上げ、子どもから大人まで幅広い年代の皆様に楽しくわかりやすく伝えることを目指した。千葉県下で今まに行われているものづくりの素晴らしさやおもしろさに目を向けさせる、2年間の取り組みである。

FRD ジャパン株式会社

水産業の明日のカタチ－FRD 日本の陸上養殖－

令和4年3月6日 Zoom ウェビナーにて実施 参加人数 24名



どの年齢層に対しても企業の良さが伝わるように、編集作業を行う。映像に説明や字幕を加えたり、必要に応じてフリップを製作したりする。編集後、企業と内容についてすり合わせ、より良いものへと研ぎ澄ませていく。

千葉県立現代産業科学館と協力企業現場をオンラインでつなぎ、編集動画を用いた紹介、働く人々からの直接の語り、補足説明やクイズ、質疑応答などを行うことで、技術者のアツい想いと参加者の好奇心をつなぐ。

成果

アンケートの結果、62%の参加者が「とてもよかった」と回答しており、残りの38%は「よかった」と回答している。今後同じようなイベントに参加したいかどうかの問いには100%「はい」と回答していた。イベント当日は、司会進行も Museum Educator が行い、参加者は動画を視聴したり、体験会やクイズを行ったりすることで、参加型のイベントとして楽しんでもらえた。当日も含めた、協力企業社員の丁寧な対応のおかげで、全員指名することができないほど、質疑応答の時間には手が挙がった。産業技術やものづくりに対する理解が進んだだけでなく、「もっと知りたい」「もっと教えてほしい」という気持ちを引き出すことができた。

参加者の声

- *リアルタイムで現地と質疑応答できたのがよかった。 *いろいろな仕事があるのがよかった。
- *普段触れることのできない会社、技術について知ることができた。
- *いろんなところをとってもわかりやすく教えてくれてよくよかった。

課題

- 参加者の年代にばらつきがあり、中・高生の参加が任意回答アンケートからは読み取れなかったこと。
- 取り扱う産業技術や協力企業の選定、動画の編集などに一定の時間がかかり、実施回数に限りがあること。

スマートソーラー株式会社

たんけん!! ミライ－電気の地産地消をめざして－

令和5年5月21日当館サイエンスドームにて実施 参加人数 74名

Museum Educator の役割

Step 1 引き出し

産業技術の内容、開発までの道のり、苦労話など、技術者のアツい想いを引き出す

企業の特徴や参加者に知ってもらいたい内容、注目すべき産業技術について担当者と打ち合わせる。打ち合わせ終了後、動画の撮影やインタビューを行う。わかりやすく伝えるためのアドバイスを重ね、表現方法や表情などにも気を配る。

Step 2 組み立て

興味・関心を高める導入、驚きが伴う展開、自分ごととして捉えるまとめを意識して、事業を組み立てる



Step 3 つなげる

産業技術と生活、技術者と参加者、現場と会場、物理的にも精神的にもつなげる



教えることに全力で臨む
教員ぶらず博物館職員

Museum Educator

ウェルビーイングの実現に
先だって取り組む技術者

Pio-Engineer

ミライを創る

